

2013年3月期 第2四半期決算説明会

ウシオ電機株式会社

2012年10月31日

〈免責事項〉本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、一部を除き切捨てによる億円単位で表記しております。

USHIO

Lighting —Edge Technologies

-
- I. **第2四半期業績概況**
 - II. 通期業績見通し
 - III. 参考資料

今回の決算発表のポイント

➤ **業績内容**

第2四半期累計期間の連結売上高は、対前期比5.0%減の713億円、連結営業利益は、対前期比41.0%減の38億円。

➤ **装置事業：**

◆映像装置分野

デジタルシネマプロジェクタが先進国において相当程度普及したことにより、YoY、QoQで減少。一方、ノンシネマ製品の販売は各地域で底堅く推移。

◆光学装置分野

液晶・半導体分野を中心に設備投資を抑制あるいは延期する動きが続き、装置販売は低調に推移。

➤ **光源事業：**

放電ランプでは、シネマプロジェクタ用クセノンランプの販売は堅調に推移したが、露光用UVランプは、リプレイス需要が依然として低調に推移。ハロゲンランプはYoYで増収。

➤ 費用面では、研究開発費が固体光源開発用等を中心にQoQ、YoYで増加。

➤ **業績修正：**

今後も液晶・半導体関連分野を中心に需要低迷は続き、設備稼働や設備投資の本格的回復には時間を要することが想定されるため、通期連結業績予想を下方修正。

業績サマリー

(億円)	FY11	FY12	YoY		FY12	対計画	
	1H	1H	増減	%	1H計画	増減	%
売上高	750	713	▲37	▲5.0	800	▲86	▲10.9
営業利益	65	38	▲26	▲41.0	45	▲6	▲14.7
営業利益率 (%)	8.7	5.4	▲3.3P	-	5.6	▲0.2P	-
経常利益	68	32	▲36	▲53.2	55	▲22	▲41.7
当期利益	45	13	▲32	▲71.5	40	▲26	▲67.4
EPS (円)	34.34	9.94			30.5		
為替レート (円)							
USD	79	79					
EUR	114	100					

為替による通期の 影響額 (億円)	売上高	営業利益	経常利益
USD	14	2	3

※2Qの為替レートは、6ヶ月間の期中平均レートとなっております。

業績サマリー 《四半期比較》

(億円)	1Q	2Q	QoQ	
			増減	%
売上高	359	353	▲6	▲1.8
営業利益	19	19	0	+1.1
営業利益率 (%)	5.3	5.5	+0.2P	-
経常利益	11	20	+8	+71.1
当期利益	5	7	+2	+58.6
EPS (円)	3.84	6.09		
為替レート (円)	USD	80	79	
	EUR	101	100	

※2Qの為替レートは、6ヶ月間の期中平均レートとなっております。

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

(億円)		FY11	FY12	YoY		FY12	FY12	QoQ	
		1H	1H	増減	%	1Q	2Q	増減	%
装置事業	売上高	469	432	▲36	▲7.9	219	213	▲5	▲2.7
	営業利益	23	6	▲16	▲71.5	4	1	▲2	▲57.1
	営業利益率 (%)	4.9	1.5	▲3.4P	-	2.1	0.9	▲1.2P	-
光源事業	売上高	265	264	▲1	▲0.5	131	132	+1	+1.1
	営業利益	42	31	▲11	▲26.1	14	17	+2	+19.8
	営業利益率 (%)	16.0	11.8	▲4.1P	-	10.8	12.8	+2.0P	-
その他	売上高	16	16	0	+2.5	9	7	▲2	▲22.3
	営業利益	▲0	0	0	-	0	0	0	+7.4
	営業利益率 (%)	-2.5	2.9	+5.5P	-	2.5	3.5	+1.0P	-

装置事業セグメント売上高概況

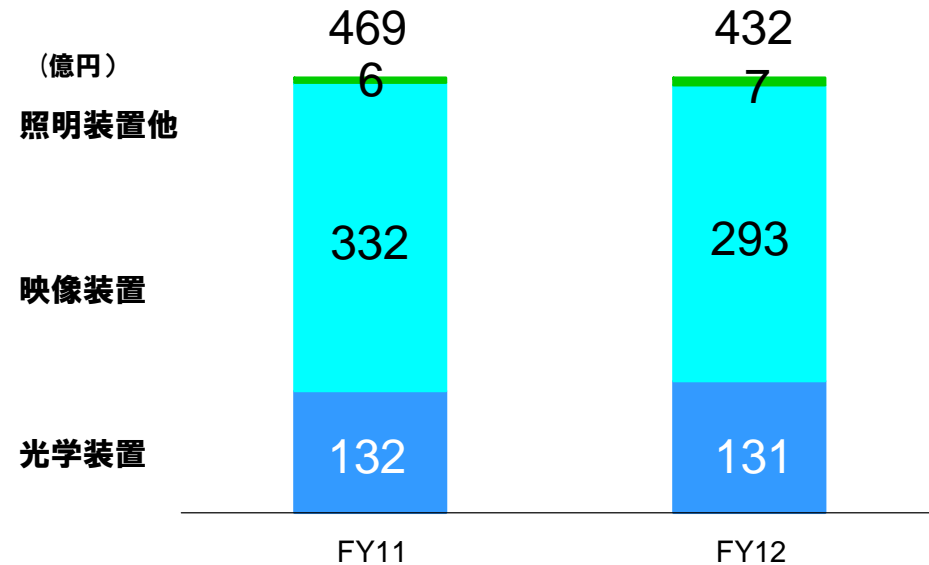
◆映像装置：

デジタルシネマプロジェクタの販売台数はYoY、QoQともに減少。ノンシネマ製品は堅調に推移。

◆光学装置：

液晶・半導体分野を中心に設備投資を抑制あるいは延期する動きが続き、低調に推移。

《1H前年比較》



《2Q直前期比較》 (億円)			QoQ	《1H前年比較》 (億円)			YoY
	1Q	2Q			FY11 1H	FY12 1H	
売上高 映像装置	157	136	▲20	売上高 映像装置	332	293	▲38
光学装置	58	72	+13	光学装置	132	131	0
照明装置他	2	4	+1	照明装置他	6	7	+1
合計	219	213	▲5	合計	469	432	▲36

光源事業セグメント売上高概況

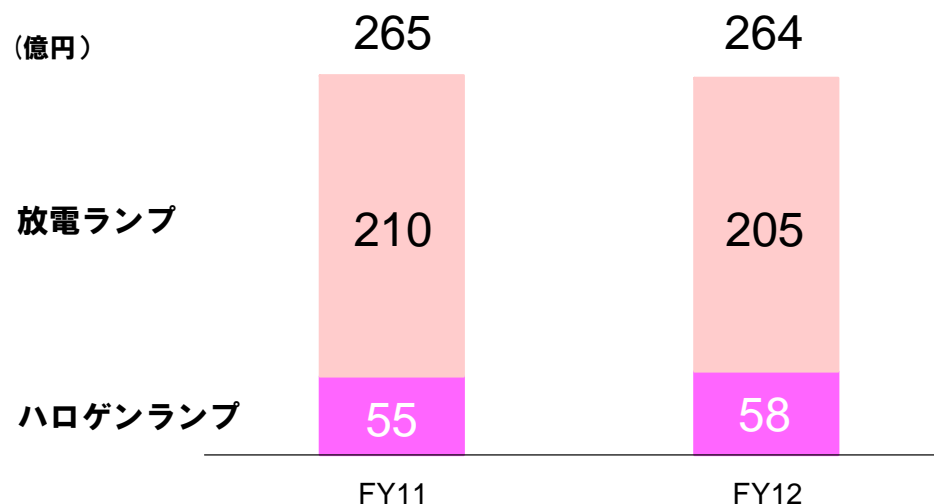
◆放電ランプ：

シネマプロジェクタ用クセノンランプの販売は堅調に推移したが、露光用UVランプは、リプレイス需要が依然として低調に推移。

◆ハロゲンランプ：

OA関連では、タイ洪水発生後の緊急対応によりYoYでは売上が増加したが、欧州での景気低迷の影響が出始めている。

《1H前年比較》



《2Q直前期比較》

(億円)		1Q	2Q	QoQ
売上高	放電ランプ	100	104	+3
	ハロゲンランプ	30	28	▲2
	合計	131	132	+1

《1H前年比較》

(億円)		FY11 1H	FY12 1H	YoY
売上高	放電ランプ	210	205	▲6
	ハロゲンランプ	55	58	+5
	合計	265	264	▲1

-
- I. 第2四半期業績概況
 - II. 通期業績見通し**
 - III. 参考資料

今後の見通し

➤ 装置事業：

◆映像装置分野

デジタルシネマプロジェクタの販売台数漸減ペースは想定ライン。4Qに「Solaria One」を投入し、新興国を中心に市場シェアの更なる拡大を目指す。ノンシネマ分野の需要は各地域で今後も堅調に推移と見込む。

◆光学装置分野

液晶関連では、大型液晶パネル関連の設備投資は引き続き低迷が想定されるが、中小型パネルでの高精細化に伴う設備投資、特に新プロセス用装置などを中心に需要が見込まれる。一方、LED関連その他電子部品関連市場における設備投資の本格的回復にはまだ時間を要すると想定。

➤ 光源事業：

◆放電ランプ

シネマプロジェクタ用クセノンランプの販売は、下期も堅調に推移するものと想定しており、またデータプロジェクタ用ランプは、ハイワットage製品の評価が高く堅調の見込み。一方、露光用UVランプは、リプレイス需要の回復には未だ時間を要すると想定。

◆ハロゲンランプ

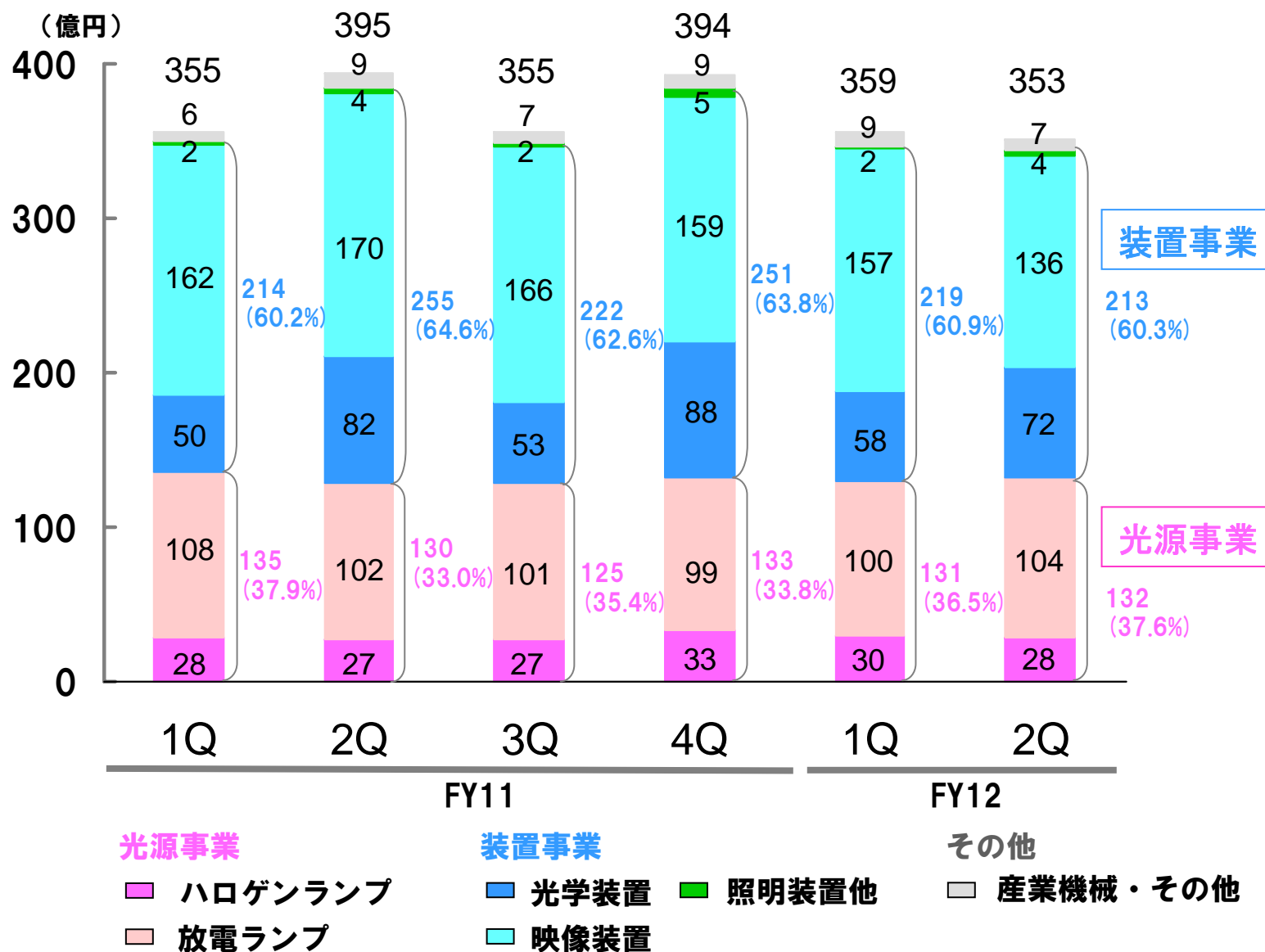
OA用は、欧州での景気低迷の影響が本格化してくるものと想定されるが、高いシェアは維持。

通期業績の見通し

(億円)	1H	通期計画	通期計画 (2012年10月修正)
売上高	713	1,650	1,450
営業利益	38	120	80
営業利益率 (%)	5.4	7.3	5.5
経常利益	32	145	100
当期利益	13	100	55
EPS (円)	9.94	76.26	41.94
ROE (%)	0.8	6.2	3.4
配当 (円)	-	22	22
配当性向 (%)	-	28.8	52.5

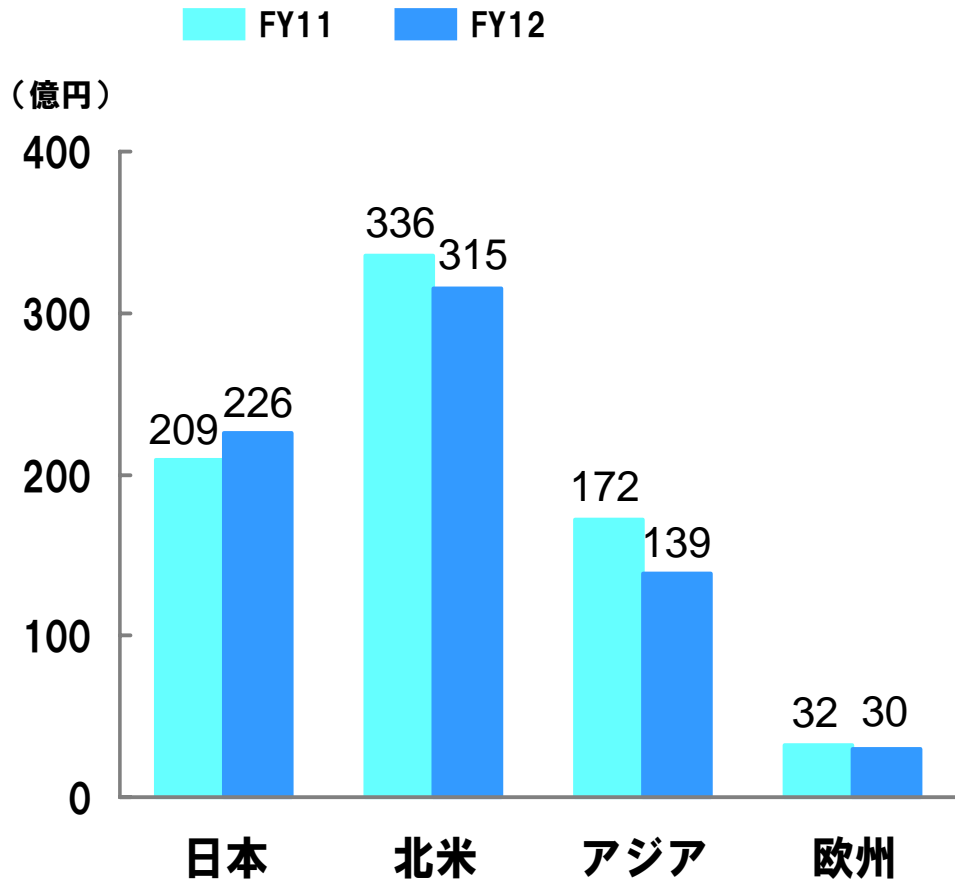
-
- I. 第2四半期業績概況
 - II. 通期業績見通し
 - III. **参考資料**

サブセグメント別売上高 《四半期比較》

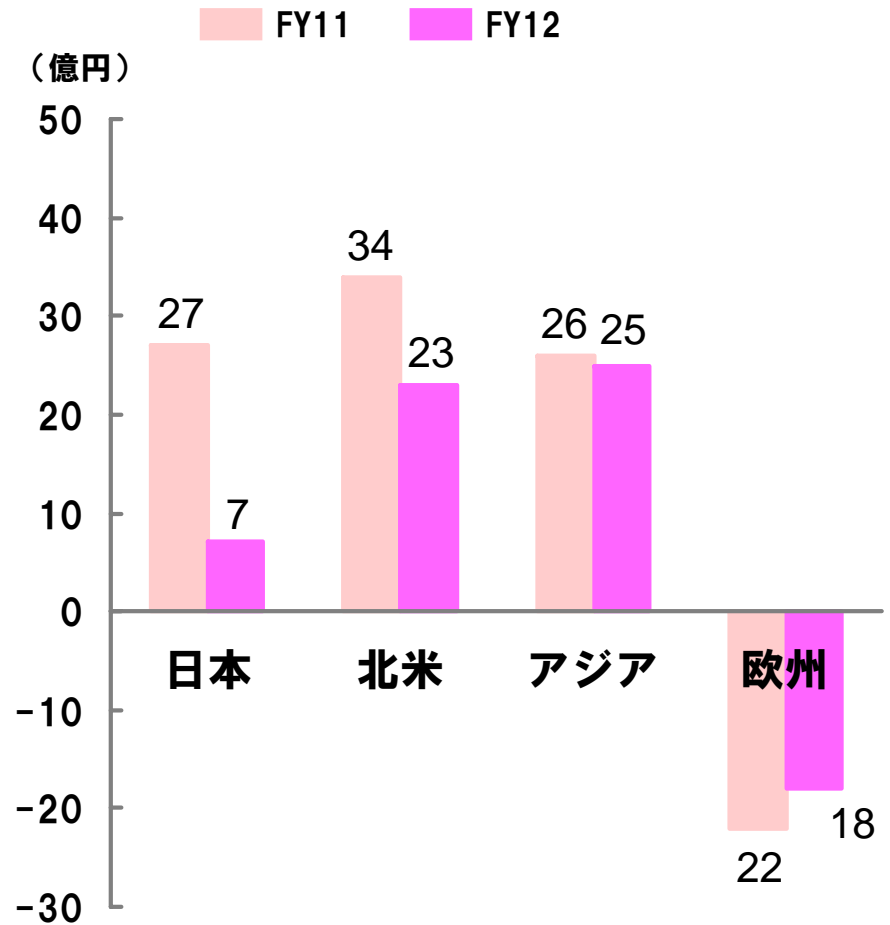


地域別損益 (1H)

◆売上高



◆営業利益

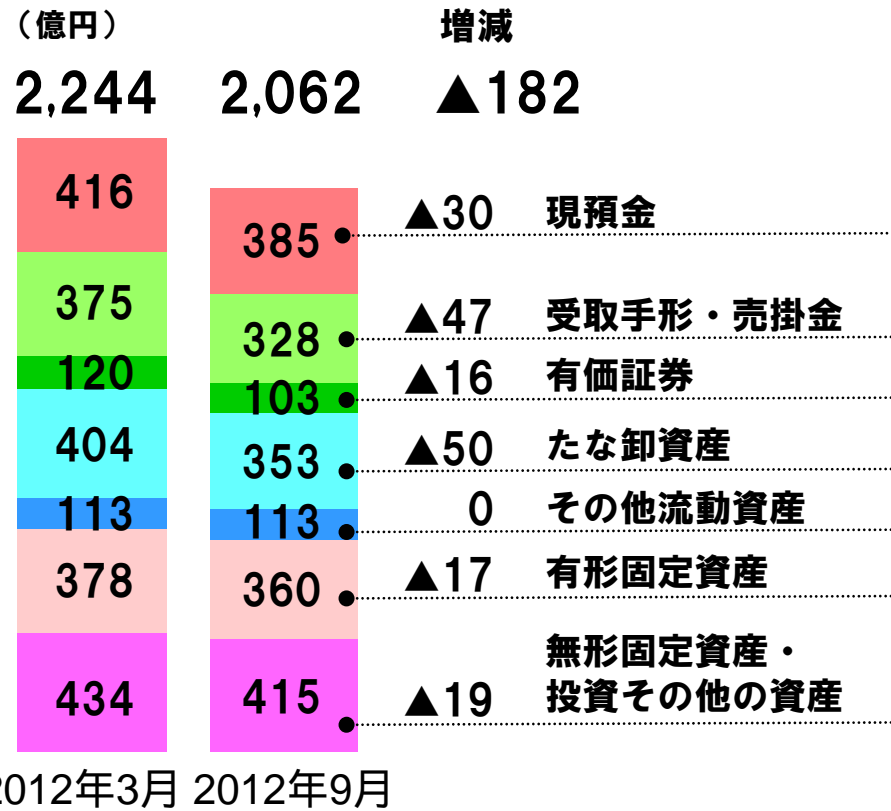


営業外収支（1H）

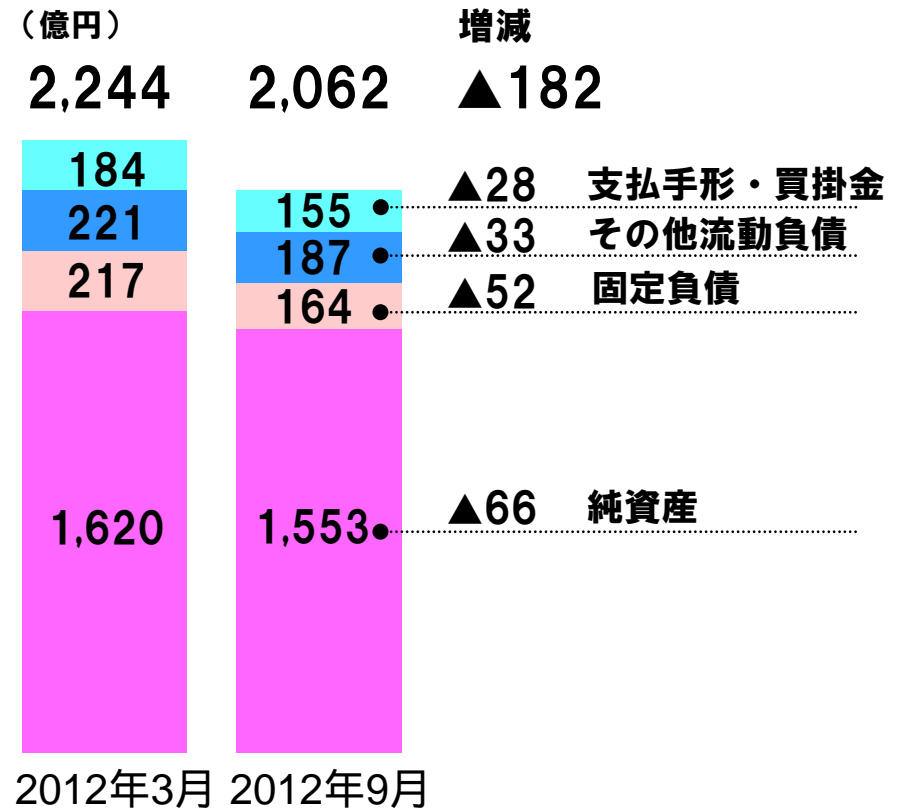
（億円）	FY11/1H累計	FY12/1H累計	YoY
営業外収益	20	8	▲11
受取利息	1	1	0
受取配当金	5	4	0
投資有価証券売却益	11	0	▲10
持分法による投資利益	0	0	0
その他	2	1	0
営業外費用	16	14	▲1
支払利息	1	0	0
為替差損	11	8	▲3
売買目的有価証券運用損	1	3	1
その他	2	2	0
営業外収支	3	▲6	▲9

BS内訳

◆資産



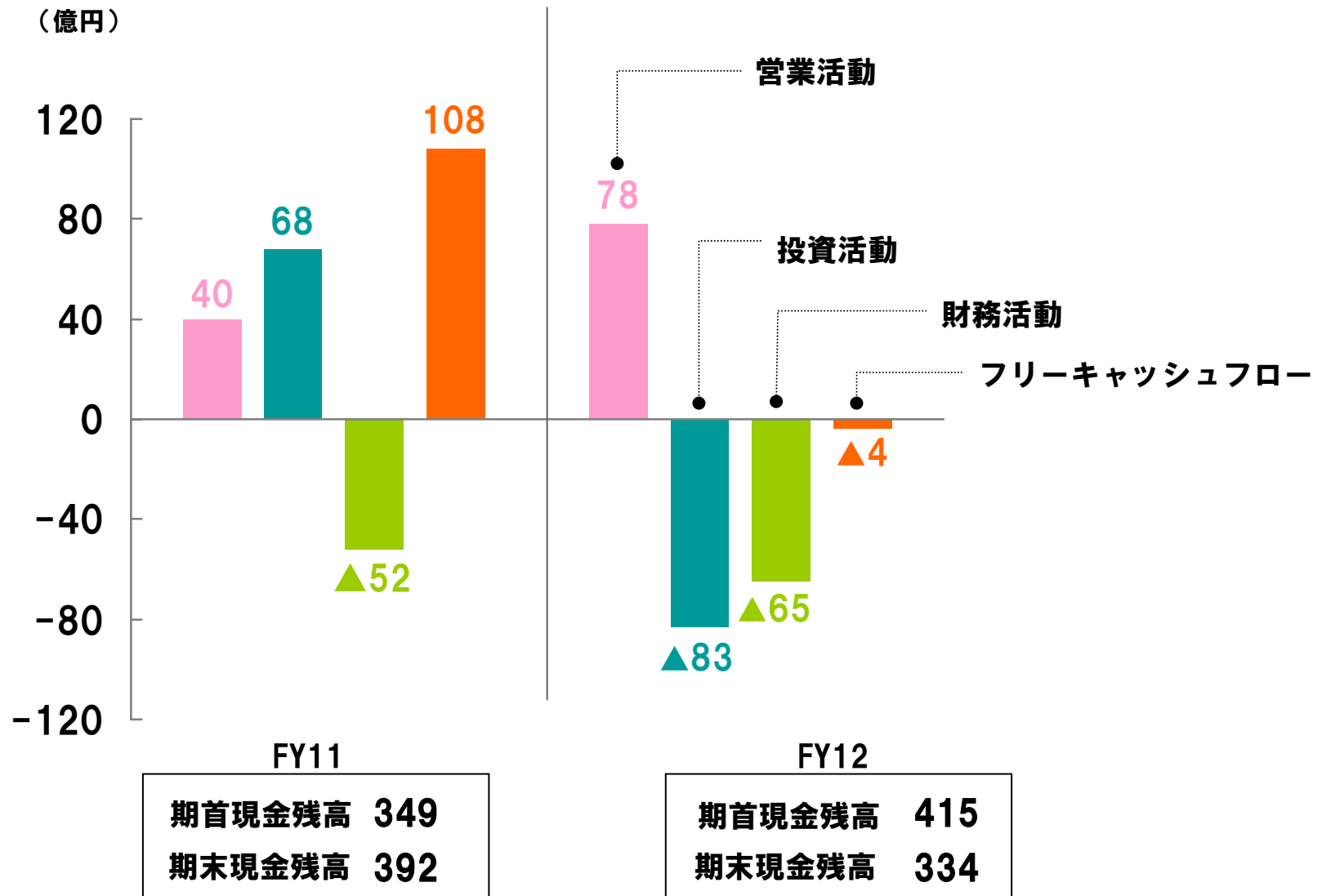
◆負債・純資産



●回転月数 (ヶ月)	2012/3	2012/9
売上債権	2.9	3.0
たな卸資産	3.2	3.2

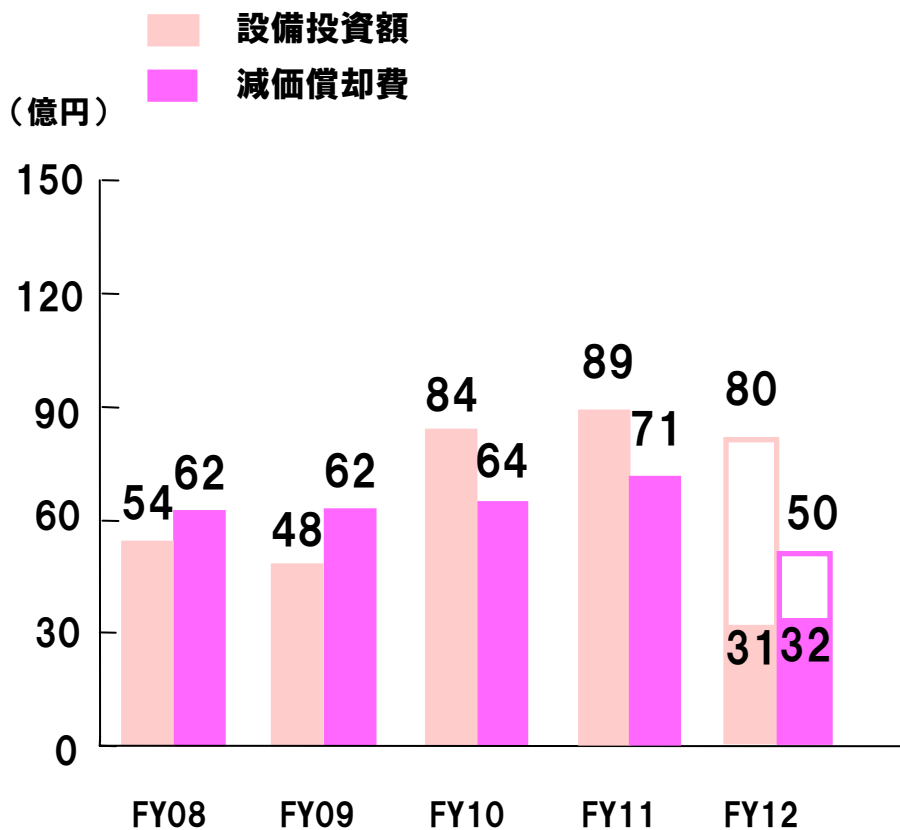
●自己資本比率	2012/3	2012/9
	70.8%	73.9%

キャッシュフロー (1H)

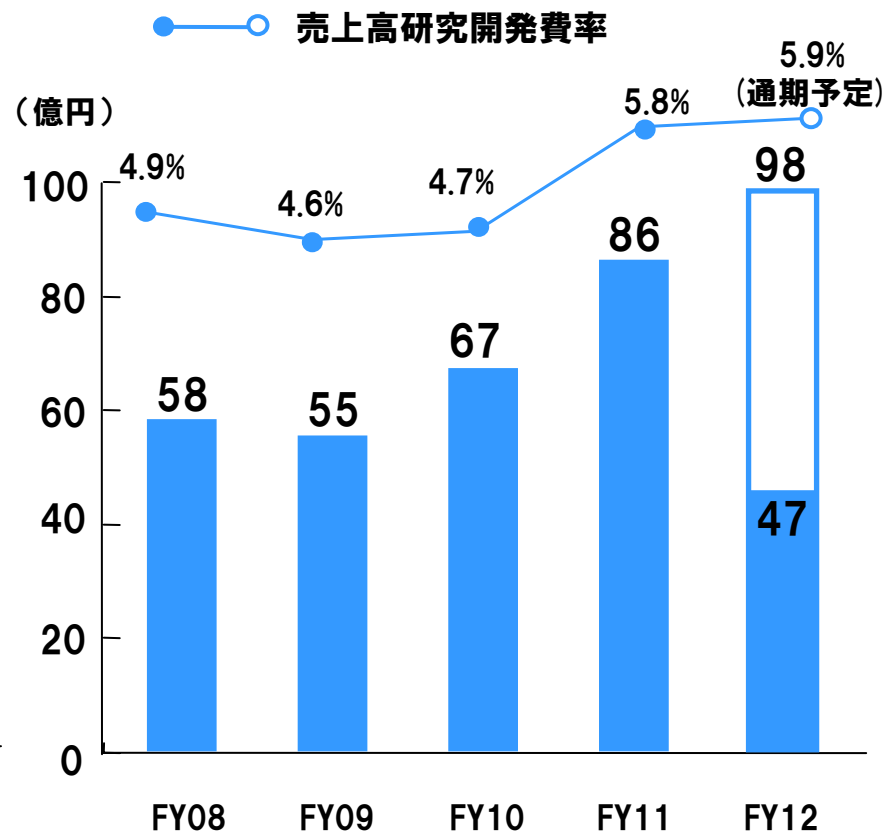


設備投資額・減価償却費・研究開発費

◆設備投資額・減価償却費



◆研究開発費



T O P I C S

**2.5D/3Dパッケージ向けステッパ
「UX7-3Di LFS」を発表（2012年7月）**



独自の大口径投影露光レンズ技術により、
ショットサイズの大型化に成功。

インターポーザの設計自由度を
大幅に向上させることで、
大面積インターポーザの製造を
可能にただけではなく、
Co0の30%低減をも実現
（従来ステッパ比）。

**照明用GaN on GaN LEDの販売を開始
（2012年8月）**



米国Soraa社製のMR16ハロゲンランプの
代替LED照明。

サファイアやシリコンを使用した
これまでのLED照明では難しかった、
シングルコアによる高照度と高演色性、
高い器具互換性を実現し、
照明デザイナーを中心に
高い評価を獲得。

**不正薬物検出キット
税関に試験導入決定（2012年10月）**



3ステップによる90秒間の測定で、
ナノグラムレベルでの検出を可能にした
オンサイト微量分析キット。

世界で初めて新規蛍光免疫測定素子
「Q-body」を利用し、
今後は食品、医療、環境にも展開予定。

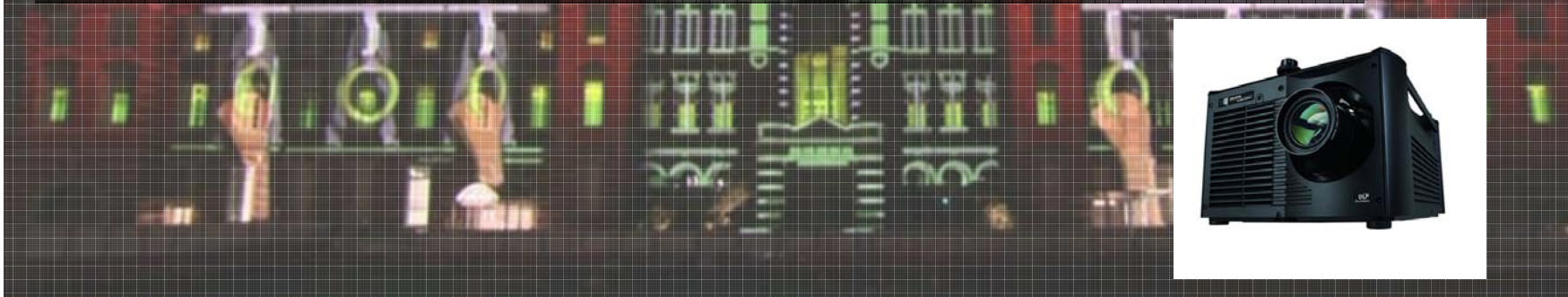
東京スカイツリータウンの「すみだ水族館」にLED照明を納入（2012年5月）

ウシオライティングのLED照明が1日の光の移り変わりを再現、演出。
昼は自然光に近い照明で動物たちの元気な姿を、夜は薄暗い照明で寝ている姿を観察できます。



東京駅の100年を映し出した「東京駅プロジェクションマッピング」(2012年9月)

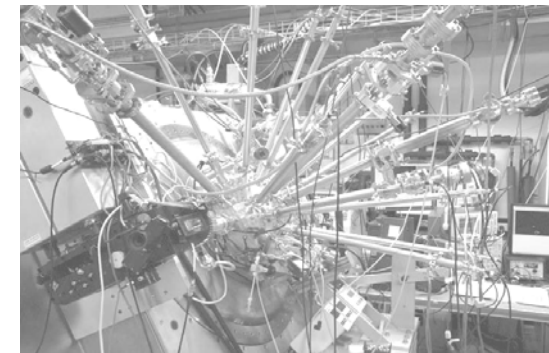
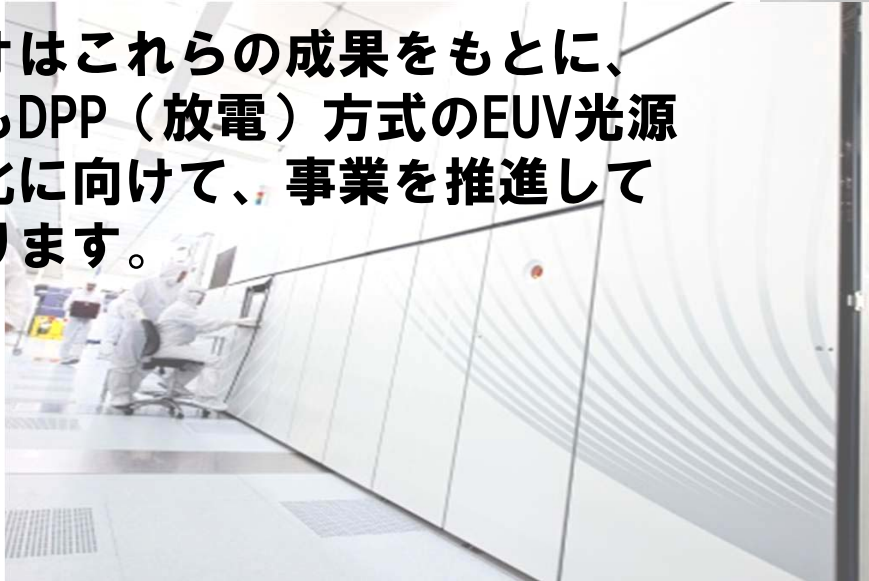
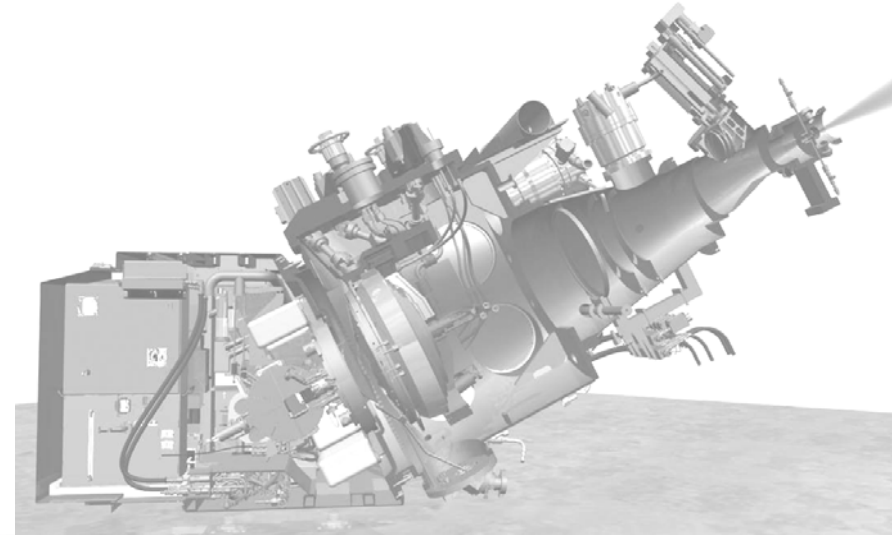
大正時代の開業当時の外観が復原された東京駅。
クリスティのプロジェクトが、赤れんがの駅舎に幻想的な映像世界を映し出しました。



EUV事業について

2012年10月1日～4日、ベルギーのブリュッセルにおいて開催されました「EUVシンポジウム2012」において、ウシオは国際的研究機関IMEC（ベルギー）での約半年間にわたる安定稼動、74Wまでの高出力実験結果および250Wの可動性実証などを発表しております。

ウシオはこれらの成果をもとに、今後もDPP（放電）方式のEUV光源量産化に向けて、事業を推進してまいります。



MEMO

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）広報IR室 （03）3242-1836
contact@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/>